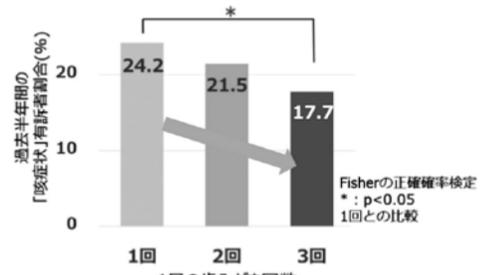


風邪の引きやすさと歯みがき行動の関係を調査

ライオン
 1734名を対象に、運動や生活習慣(睡眠・食事・歯みがき等)と風邪の引きやすさとの関係について調査した。

その結果、運動はもとより生活習慣の9日に行われた第81回公衆衛生学会にて発表して



●歯みがき回数と「咳症状」有訴者割合

具体的には、睡眠が7時間以上の人、7時間未満の人に比べて風邪を引きにくい傾向にあることがデータ上でも裏づけられた。一方、毎日は湯船に入ること、食事の栄養が偏っていない人(魚介・野菜・果物・乳製品を毎日摂っている人)は、栄養が偏っていない人(菓子類や砂糖入り飲料を毎日摂っている人)に比べて風邪を引きにくい傾向にあることが判明した。

なお研究内容については、2022年10月7〜9日に行われた第81回公衆衛生学会にて発表して

具体的には、睡眠が7時間以上の人、7時間未満の人に比べて風邪を引きにくい傾向にあることがデータ上でも裏づけられた。一方、毎日は湯船に入ること、食事の栄養が偏っていない人(魚介・野菜・果物・乳製品を毎日摂っている人)は、栄養が偏っていない人(菓子類や砂糖入り飲料を毎日摂っている人)に比べて風邪を引きにくい傾向にあることが判明した。

●歯みがき回数と「咳症状」有訴者割合

具体的には、睡眠が7時間以上の人、7時間未満の人に比べて風邪を引きにくい傾向にあることがデータ上でも裏づけられた。一方、毎日は湯船に入ること、食事の栄養が偏っていない人(魚介・野菜・果物・乳製品を毎日摂っている人)は、栄養が偏っていない人(菓子類や砂糖入り飲料を毎日摂っている人)に比べて風邪を引きにくい傾向にあることが判明した。

ポーラ化成 シートマスクの美容液を

ポーラ化成工業は、「シートマスクに含ませる美容液」に着目した研究を行い、より多くの潤いを肌に浸透させる技術を開発した。この技術を用いることで、高い満足感が得られるシートマスクの実現が期待できるといいます。

シートマスクの利点は、善が行われてきたが、美容液を含んだシートに含ませる液の性能を高めることで、水分や美容成分を肌にたっぷり供給すること、シートマスクの機能を高める上で欠かせないことから、同社は「シートに含ませる美容液」に着目し、その美容液と肌の界面自由エネルギーを小さくすることを試みた。



●人口皮革に対するなじみややすさ

界面自由エネルギーを小さくすることによりシートから肌への液の移行が促進され、角層への浸透も促進されたと考えられる。

ポーラ化成 シートマスクの美容液を

ポーラ化成工業は、「シートマスクに含ませる美容液」に着目した研究を行い、より多くの潤いを肌に浸透させる技術を開発した。この技術を用いることで、高い満足感が得られるシートマスクの実現が期待できるといいます。

シートマスクの利点は、善が行われてきたが、美容液を含んだシートに含ませる液の性能を高めることで、水分や美容成分を肌にたっぷり供給すること、シートマスクの機能を高める上で欠かせないことから、同社は「シートに含ませる美容液」に着目し、その美容液と肌の界面自由エネルギーを小さくすることを試みた。

●人口皮革に対するなじみややすさ

界面自由エネルギーを小さくすることによりシートから肌への液の移行が促進され、角層への浸透も促進されたと考えられる。

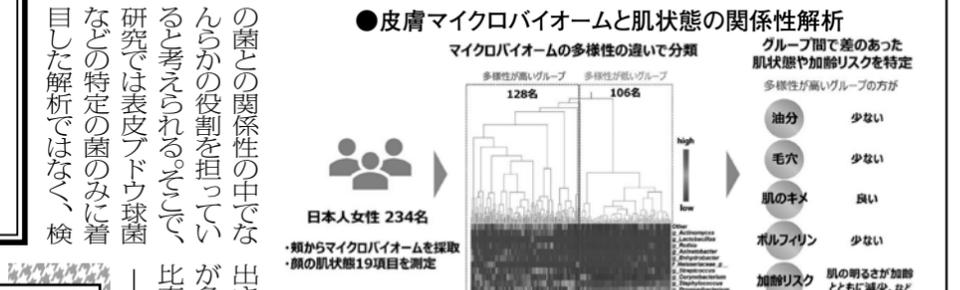
皮膚マイクロバイオームが加齢変化に関わることを発見

コーセーは、234名の日本人女性の顔のマイクロバイオーム(細菌叢)と油分量などの皮膚状態を網羅的に解析することで、皮膚マイクロバイオームの多様性(複数種類の常在菌が共存していること)が、毛穴やキメなどの肌状態の違いだけでなく、肌の明るさの加齢変化にも相関があることを明らかにした。

なお、研究成果の一部は、フランス化粧品協会が発行する化粧品や肌に関する国際学術誌「International Journal of Cosmetic Science (IJCS)」に掲載され、2021年に同誌に掲載された77論文の中で最も優れた論文として「ベストペーパー」を受賞している。

世界の美容・ヘルスケア分野で皮膚マイクロバイオームに注目が集まる中、化粧品研究においても、表皮ドブ球菌やアケネ菌など、肌上に存在する菌と肌状態の関係性に着目した化粧品開発が盛んに進められている。皮膚マイクロバイオームと皮膚状態の関係は複雑であり、未解明な点が多く残されている。

そこで、同社では皮膚マイクロバイオームと皮膚状態の関係を試みた。



●皮膚マイクロバイオームの多様性と皮膚状態の関係性分析

肌の測定項目	多様性の高いグループ	多様性の低いグループ
油分量	17.5	35.2
毛穴	593.7	864.2
ポルフィリン濃度	645.8	1345.7
肌表面の菌の数	920.3	1098.6
1*種 (菌数)	64.7	64.6
a*種 (菌数)	8.4	8.8
b*種 (菌数)	18.4	18.0
TEWL (水分蒸散量)	10.4	10.9
水分量	232.8	226.9
pH	5.6	5.6
コラーゲン量	53.6	49.1
皮膚厚み	1528.5	1579.5
弾性 (R5)	0.4	0.4
弾性 (R7)	0.5	0.5
Brown Spot Count	141.8	140.0
Red Spot Count	141.0	150.5
Spot Count	90.6	96.6
UVS和指数	289.5	295.6
しわの数	72.1	75.2

その結果、皮膚マイクロバイオームの多様性の高いグループは、肌の明るさや加齢リスクが低い傾向にあることがわかった。

このグループ間で肌状態の違いを解析したところ、肌の明るさや加齢リスクが低い傾向にあることがわかった。

今後の研究をさらに深めたい。皮膚マイクロバイオームの多様性と皮膚状態の関係性をさらに深く解析し、具体的な化粧品を開発していきたい。